



鯛



溪村五月



寒梅南天

出展リスト

作品名	制作年	材質	形状	寸法(cm)
柚子	大正13年頃	紙本・着色	屏風	127×147
白梅		紙本・墨画淡彩	屏風	172×184
あざみ		紙本・墨画淡彩	軸装	28×41
溪村五月		紙本・墨画淡彩	軸装	132×35
蚊遣り		紙本・墨画淡彩	軸装	39×54
山村秋色	昭和20年頃	紙本・墨画淡彩	軸装	134×45
雪郷		紙本・墨画淡彩	軸装	132×33
楽釣		紙本・墨画淡彩	軸装	130×42
山家春色		紙本・墨画淡彩	軸装	130×44
梅溪		紙本・墨画淡彩	軸装	142×51
閻		紙本・墨画	軸装	35×48
在山河		紙本・墨画淡彩	軸装	91×69
寒梅南天		紙本・墨画淡彩	軸装	136×37
漁樵問答		紙本・墨画淡彩	軸装	131×34
大山風景		紙本・墨画淡彩	軸装	35×46
不動明王		紙本・墨画淡彩	軸装	45×33
暮雨		紙本・墨画淡彩	軸装	52×38
ざくろ	昭和26年	紙本・墨画淡彩	額装	30×43
夏之山		紙本・墨画淡彩	額装	45×88
湖畔幽趣		紙本・墨画淡彩	額装	43×30
梅信図		紙本・墨画淡彩	額装	45×30
桃		紙本・墨画淡彩	額装	34×45
いわし	昭和26年	紙本・墨画淡彩	額装	28×42
焚火のあと		紙本・墨画淡彩	額装	34×26
鯛		紙本・墨画淡彩	額装	45×65
雲海		紙本・墨画淡彩	額装	44×52
手紙1	昭和20年8月	紙・墨		28×35
手紙2	昭和20年10月	紙・墨		25×17
中西草闘愛蔵品	海中図徳利	陶器		13×7

お知らせ

佐藤一章生誕120年・やかげ郷土美術館開館35周年記念

佐藤一章展

6月21日(土)～9月21日(日)

場 所 やかげ郷土美術館 常設展示室

入館料 一般200円(中高生以下無料)

わたしの愛蔵品展 中西草闘  
～筒井コレクションより～



在山河

2025 6.24(火) — 7.6(日)

開館時間◎9:00-17:00(入館は16:30まで) 休館日◎6月30日(月) 観覧料◎無料  
会場◎やかげ郷土美術館 町民ギャラリー 主催◎矢掛町・矢掛町教育委員会・やかげ郷土美術館

やかげ郷土美術館  
YAKAGE MUSEUM of ART

〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛3118-1  
TEL 0866-82-2110 FAX 0866-82-2164  
E-mail museum@town.yakage.lg.jp  
https://museum.yakage-kyouiku.info/

やかげ郷土美術館  
YAKAGE MUSEUM of ART

〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛3118-1  
TEL 0866-82-2110 FAX 0866-82-2164  
E-mail museum@town.yakage.lg.jp  
https://museum.yakage-kyouiku.info/



# わたしの愛蔵品展 中西草鬮

Nakanishi Soutou  
～筒井コレクションより～

このたび、やかげ郷土美術館では「わたしの愛蔵品展 中西草鬮～筒井コレクションより～」を開催します。

水墨画家・中西草鬮は、明治36(1903)年矢掛町に生まれ、私立金光中学校を卒業後、洋画家を目指して東京の日本美術学校で学びます。その後小川芋銭に師事し、森田恒友に水墨画を学びます。昭和17年には鴨方町(現在の浅口市)へ帰郷、そして昭和38年に倉敷市で生涯を終えるまで、矢掛町、鴨方町、倉敷市など岡山県西部を中心に清水比庵や池田遙邨、佐藤一章らと交流しつつ、独自の画風を展開しました。

雅号は「草鬮」以外に「柚里」「猿子」「芽頭」「草和」を使っています。

この展覧会では、筒井保太氏が愛蔵する中西草鬮の作品約30点を紹介します。墨の濃淡を駆使して、生涯ふるさとの山河や田園風景を描き続けた水墨画家・中西草鬮の世界をお楽しみください。



**暮雨**  
「草鬮」を名乗る前に用いていた雅号「芽頭」の頃の作品。雨の降る夕暮れ時の山村の様子を水分を含んだ筆でしみじみと描き出している。



**柚子** 初期の雅号「柚里」の作品。ふるさと矢掛町に多い柚子を題材に、確かなデッサン力で丁寧に描かれている。



**山村秋色**  
紅葉で色づいた山が迫る溪流のそばに立つ農家と大きな柿の木。長い棒を使って柿の実を落とす父とその実を歓声を上げながら拾う子どもたちの様子がほほえましい作品。



**楽釣**



**夏之山**



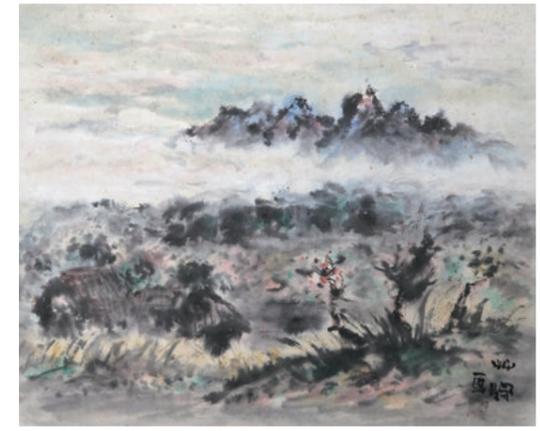
**大山風景**  
墨の滲みを自在に駆使し、遠近感のある風景を見事に描き出している。大山寺あたりからの景色と思われる。



**湖畔幽趣**  
荒い繊維を含んだ紙面に墨の滲みによって描かれた大樹が幽玄な雰囲気漂わせる。雅号は「草和」を用いている。



**不動明王**  
仏画は、数ある草鬮の作品の中でも珍しい。強面の不動明王も草鬮にかかると愛らしく感じられる。



**雲海**



**漁樵問答**  
大自然を友に、悠々と生きる漁師と樵がお互いの天分について語り合う様子を描く。草鬮はこの画題を多く描いている。



**梅溪**  
岡山の名勝「豪溪」を思わせる奇岩と溪流。釣り糸をたらす小舟や茅葺きの家の手前には、画面いっぱいに白梅が咲き誇り、本格的な春の到来を予感させる。